

特別支援学級 生活単元学習指導案

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなろ学級 1組）

4人（1年男子2人，女子1人，4年男子1人）

指導者 木原正晶

1 単元名 あすはばカレンダーを作ろう

2 単元の目標

(1) 全体目標

- 「フェスタ山下（P T Aバザー）」までの活動に見通しをもち、カレンダー作りやお店屋さんごっこに意欲的に取り組むことができる。
- カレンダーの絵や文，日付の数字，買ってくれた人へのお礼の手紙等を自分なりの方法でかくことができる。
- カレンダーを買ってくれる人の気持ちを考えながら，カレンダー作りやお店屋さんごっこをすることができる。
- 「フェスタ山下」までの活動を通して，友達と一緒に活動する楽しさを味わったり，協力したりすることができる。

(2) 個人目標

A児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「フェスタ山下」に向けてカレンダーを作ったり，お店屋さんごっこをしたりすることが分かり，学習に意欲的に取り組むことができる。 ○ 教師や友達に分からないことを聞いたり，好きなものを参考にしたりして，自分が担当する月のカレンダーの絵や文，日付の数字，買ってくれた人へのお礼の手紙等をかくことができる。 ○ カレンダー作りやお店屋さんごっこで相手とやり取りするときは，相手に聞こえる声で伝えることができる。
B児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「フェスタ山下」までの活動に見通しをもち，カレンダーを作ったり，お店屋さんごっこをしたりするときは，友達と声を掛け合いながら活動することができる。 ○ 自分が担当する月のカレンダーの絵や文，日付の数字，買ってくれた人へのお礼の手紙等を最後まで丁寧にかくことができる。 ○ カレンダー作りやお店屋さんごっこでは，友達を手伝ったり，順番を守ったりしながら活動することができる。
C児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「フェスタ山下」に向けてカレンダーを作ったり，お店屋さんごっこをしたりすることが分かり，学習に落ち着いて取り組むことができる。 ○ 教師と一緒に自分が担当する月のカレンダーの絵や文，日付の数字，買ってくれた人へのお礼の手紙等をかくことができる。 ○ カレンダー作りやお店屋さんごっこでは，手順表や話型を見ながら相手とやり取りすることができる。
D児 (4年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「フェスタ山下」までの活動に見通しをもち，これまでの経験を生かしながらカレンダー作りやお店屋さんごっこに友達と協力して取り組むことができる。 ○ 「買ってくれる人が喜んでくれるには，どうしたらいいか。」ということを考えながら，自分が担当する月のカレンダーの絵や文，日付の数字，買ってくれた人へのお礼の手紙等をかくことができる。 ○ カレンダー作りやお店屋さんごっこでは，1年生に手本を見せたり，教えたりしながら活動することができる。

3 単元について

(1) 単元設定の理由

これまでに子供たちは，生活単元学習で作品展示コーナー（あすはばコーナー）の制作，遠足や避難訓練の事前事後学習，あすはば農園の野菜の苗植えから収穫後の野菜パーティーの企画や運営などの活動に取り組んできている。これらの学習を通して，終了や完成までの見通しをもちながら楽しく活動している。しかし，子供たちは，制作活動において絵をかいたり，物を作ったりする活動に，最初は意欲的に取り組むことができるが，興味や関心が持続せずに，途中で活動を止めてしまったり，完成までに時間が掛かったりすることもある。また，周りの人と簡単なあいさつや言葉を交わすことはできるが，相手に関心を向けて一緒に活動をしたり，協力したりすることが難しいこともある。

そこで，本単元では，あすはばカレンダー作りやお店屋さんごっこの活動を通して，計画を立て，見通しをもって，学習に意欲的に取り組むことができるようにする。また，カレンダー作りでは，月ごとのカレンダーの絵やそこに添える文を自分なりの方法で最後までかくことができるようにする。さらに，「フェスタ山下」に向けての活動を通して，買ってくれる人のことを考えながら，カレンダーを作ったり，友達と一緒に活動したりしていくことで，相手意識を高めたり，友達と協力して活動することの楽しさを味わったりすることができるようにする。

この単元を通して，子供たちは，協力しながらカレンダーを作り上げ，それをみんなに販売することができたという成功経験を積み，今後の活動にも自信をもって取り組むことができると考える。また，カレンダーを買ってくれた多くの客とのやり取りのよさを味わい，もっと人と関わり合いたいという気持ちを高めることができると考える。

(2) 子供の実態

子供	教育的ニーズ	本単元に関する知識・技能・生活経験			活動への意欲・態度
		カレンダー作り	お店屋さんごっこ	「関わり合い」	
A 児	<ul style="list-style-type: none"> 学習に大まかな見通しをもち、様々な活動に自分から進んで参加できること。 自分の気持ちを相手に伝えることができること。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧になぞり書きをしたり、はみ出さないように塗り絵をしたりすることができる。 手本を見ながら文を写し書きをすることができる。 30までの数字を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族で買い物に出かけることは多い。両親が支払いをしたり、店員とやり取りをしたりする様子は見ているが、自分でやり取りをしたことはほとんどない。買いたいものを自分で選ぶことはできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言いたいことやしたいことがあっても、教師や友達からの言葉掛けを待っていることが多い。 当番や役割を決めるときなどは、自分がしたいことを我慢して、友達に自分の気持ちを伝えないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達の言葉掛けなどで友達と一緒に活動できる。マイペースでなかなか次の行動に移れないことがある。
B 児	<ul style="list-style-type: none"> 学習に見通しをもち、自分で考えて主体的に活動することができること。 教師や友達と協力して活動することができること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が描きたいものを想像して一気に描いている。集中が続かず、途中で終わってしまうことがある。 100より大きい数を書いたり読んだりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 代金の支払いをしたり、釣り銭の計算をしたりすることは好きである。購入を焦るあまり、落ち着いて行動することができないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰とでも積極的に関わりをもつことができる。自分の思いを優先しすぎて、一方的に話してしまうことがある。思いが通らなずに怒ってしまうこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心の高い活動へは意欲的に取り組む。途中で活動を中断したり、友達と協力することができなかつたりすることもある。
C 児	<ul style="list-style-type: none"> 学習に大まかな見通しをもち、教師や友達と一緒に活動に参加できること。 着席して学習に参加できること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いのままに絵を描くことが好きである。また、教師に「○○をかいて」と要求してくることがある。 10までの数を書けるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物経験が少ない。そのため、お金の価値、買い物の仕組みなどの理解は不十分である。友達をまねしながらごっこ遊びをすることは好きである。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のよさや頑張りを素直に認め、称賛することができる。 伝えたいことを上手く言葉で表現できずに、怒ったり、手を出してしまったりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に活動に取り組むことができる。一人では、活動に取り組みなかつたり、違う活動をしたりしていることが多い。
D 児	<ul style="list-style-type: none"> 学習に見通しをもち、自分で考えて主体的に活動することができること。 教師や友達と一緒に活動することができること。 	<ul style="list-style-type: none"> 数字、矢印、線、円などをたくさん重ねて絵を描くことが好きである。少しずつ人物や動物、具体的な物の絵を描くことができるようになってきている。 パターン化した文を書けるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 母親が勤めているコンビニエンスストアで、母親や買い物客の様子を眺めていることがある。また、昼休みに、母親のまねをして店員の使う言葉をつぶやいて一人でお店屋さんごっこをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の口癖やアニメキャラクターの台詞など好きなフレーズを繰り返したり、言葉遊びをしたりすることが好きである。自分の気持ちや、考えを伝えることは苦手で、意思とは反対の言動が見られることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でしおりや日程表を確認して、活動への見通しがもてているときには、意欲的に活動に参加することができる。 学級の友達に自分から声を掛け、一緒に遊ぶことができるようになってきている。

4 指導に当たって

(1) 「学び合い」の基礎となる「関わり合い」に視点を当てた授業づくり【研究内容1】

- 本単元においては、カレンダー作りやお店屋さんごっこを通して、友達と協力したり、役割分担をしたりするなどの「関わり合い」を設定する（協力、分業・調整）。例えば、お店屋さんごっこにおいて、買うときや売るときにどんなやり取りが必要か互いに考えたり、役割演技の中で友達のよいところを伝え合ったりするなど、友達との関わりが必要となる活動を設定することで、子供たちが主体的に関わり合うことができるようにする。
- 「『関わり合い』想定シート」を作成し、「関わり合い」における個人目標や子供の発言や思いの想定、さらに教師の手立てを明記することで、指導の際に生かすことができるようにする。

(2) 自己の学びを自覚するための評価活動【研究内容2】

- 単元を通して自己評価カードを活用することで、単元全体を通じた学習の積み重ねを実感することができるようにする。自己評価の際は、個人のため（「今日頑張ること」）や「関わり合い」について振り返りを行うことで、自己の学びの達成感を味わったり、友達のよさを認め合ったりすることができるようにする。

5 指導計画 (総時数17時間)

次	時間	指導のねらいと主な活動内容
一 次	1	<p>「『フェスタ山下』の計画を立てよう」 【指導のねらい】 「フェスタ山下」を目標にして、カレンダー作りやお店屋さんごっこなどの活動への意欲を高め、見通しをもって学習に参加することができるようにする。 【活動内容】 1 今年の「フェスタ山下」の写真を見て、今年の「フェスタ山下」について話し合う。 2 あすはばカレンダーを毎年買っている客からのメッセージビデオを見る。 3 今年も「あすはば屋」を出店し、「あすはばカレンダー」を売ることがを共通理解し、カレンダーを作ったり、売ったりするときの大切なポイント（「相手のことを考える」）を話し合う。 4 「どうすればお客さんに喜んでカレンダーを買ってもらえるか。」について話し合い、活動計画を立てる。 5 「フェスタ山下」までの活動を確認し、単元マップをまとめながら、これからの学習への見通しをもつ。</p>
二 次	7	<p>「友達と協力して、カレンダーを作ろう」 【指導のねらい】 友達や教師と協力しながら、相手意識をもって、絵や文、数字をいかたりしてカレンダーを作ることができる。 第1時 年間行事の写真や季節の絵本を見て各月のイメージを広げる。 第2時 自分が作りたいカレンダーの月を決める。 第3～6時 { 順番や、土日、祝祭日などに気を付けて日付を書く。 イラストを参考にしたり、行事の写真を見たりしながらカレンダーの絵を描く。 描いた絵に文を書く。 第7時 カレンダーの丁合と製本をする。 【活動内容】 1 行事の写真を見ながら作りたい月を決める。 2 絵や文、日付の数字などをかく。 3 グループで役割分担し、丁合や製本など協力してカレンダーを完成させる。</p>
	3	<p>「友達と協力して『あすはば屋』を作ろう」 【指導のねらい】 様々なお店の外装や店内の様子写真やVTRを見ることで、みんなで作りたい「あすはば屋」のイメージを膨らませ、お店に必要な看板やちらし、ポスターなどを作ることができる。 【活動内容】 1 前時までの活動を振り返り、「フェスタ山下」でカレンダーを販売するお店「あすはば屋」を開くことを確認する。 2 子供たちがこれまでに買い物に行ったことがあるお店を思い出したり、教師の準備した写真、VTRを参考にしたりして作りたいお店の看板やちらし、ポスターなどを考える。 3 「あすはば屋」の看板やちらし、ポスターを作る。</p>
三 次	5 (本時2/5)	<p>「『あすはば屋』の練習をしよう」 【指導のねらい】 お店屋さんごっこを通して、店員と客のやり取りを楽しみながら、売る側の対応の仕方を確認することができる。 【活動内容】 1 買うときにはどんなやり取りが必要なのか考えてお店屋さんごっこをする。 2 売るときにはどんなやり取りが必要なのか考えてお店屋さんごっこをする。 3 お金の管理や支払いの方法を確認してお店屋さんごっこをする。 4 前時までの学習を生かして、店員と客に分かれてお店屋さんごっこをする。 5 はばたき学級の子供たちとお店屋さんごっこをする。</p>
		「フェスタ山下」 (12月4日)
四 次	1	<p>「楽しかったことを発表したり、お礼の気持ちを伝えたりしよう」 【指導のねらい】 「あすはば屋」の様子を写真やVTRを見て振り返ることで、楽しかったことや自分でできたことを発表したり、感謝の気持ちを伝える手紙を書いたりすることができる。 【活動内容】 1 「あすはば屋」の様子を写真やVTRを見て振り返る。 2 「フェスタ山下」に参加した感想を発表する。 3 カレンダーを買ってくれた人たちへのお礼の気持ちを「〇〇してくれてありがとう。」という文や絵にまとめる。</p>

主な「関わり合い」の場面

【第1時】

- 「フェスタ山下」までの学習計画を立てるために、これまでの活動を振り返ったり、作りたいカレンダーの内容について話し合ったりする。
(教示・援助)

昨年はみんなで月ごとに絵と文をかいたよ。

【第2時～第11時】

- 月ごとの絵や文をかいたり、カレンダーを丁合、製本したりする。
(協力、分業・調整)

みんなで頑張って150冊カレンダーを作ろう。

僕は4月、〇〇さんは、10月をかくね。

私も12月をかきたいけど〇〇さんに譲ります。

【第12時～第16時】

- 店員と客に分かれて役割演技をして、友達のよいところを見つける。
(称賛、分業・調整)

〇〇さんは、「いらっしゃいませ。」「ありがとうございました。」と言っていました。

6 本時 (13/17)

- (1) 全体目標 カレンダーを売るときに必要なやり取りを考え、友達と協力してお店屋さんごっこをすることができる。
 (2) 個人目標

個人目標	A児 カレンダーを売るときに必要なやり取りを教師や友達と考え、相手に伝わる声の大ききでお店屋さんごっこをすることができる。
	B児 カレンダーを売るときに必要なやり取りを考え、友達と役割分担したり順番を守ったりしながらお店屋さんごっこをすることができる。
	C児 カレンダーを売るときに必要なやり取りを教師や友達と一緒に考えたものの中から自分で選択して、手順表や話型を見ながらお店屋さんごっこをすることができる。
	D児 カレンダーを売るときに必要なやり取りを友達に教え、友達と協力してお店屋さんごっこをすることができる。

(3) 展開 聞く、話す、見る、動くは、「関わり合い」を充実させるための活動 ◆評価に関すること ☆はICT活用上の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	A児	B児	C児	D児
つかむ・見通す (10)	<p>1 本時の学習内容を知る。 2 本時のめあてを確認する。</p> <p>カレンダーを売る練習をしよう。</p> <p>(1) めあてを声に出して読む。 (2) 「あすはばば屋」を成功させるための大切なポイント（「相手のことを考える」）を確認する。 (3) 個人のめあて（「今日頑張ること」）を確認する。</p> <p>今日は、あったか言葉を使ってカレンダーを売る練習をするぞ。</p>				
活動する (25)	<p>3 学習の流れを確認する。 4 カレンダーを売るときにどんなやりとりをすればよいか考える。 【「関わり合い」(教示・援助)】</p> <p>「あすはばば屋」で、お店の人はどんな仕事をしていたかな。</p> <p>5 カレンダーを売る練習をする。 【「関わり合い」(称賛、分業・調整)】</p>				
振り返る (10)	<p>6 本時の活動を振り返る。【評価活動】</p> <p>お店屋さんになって「ありがとうございました。」とあったか言葉を使えたぞ。</p> <p>7 次の活動について知る。</p>				

- 単元マップを提示することで、前時までの学習を想起し、本時の活動への見通しをもたせることができるようにする。
- 「あすはばば屋」を成功させるための大切なポイントは、何だったかな。」と発問することで、「相手のことを考える」ことやそのためのみんなで考えた目標（「教える」、「手伝う」、「あったか言葉を使う」）ことを思い出すことができるようにする。
- 「できたかなカード」（自己評価カード）を活用することで、個人のめあて（「今日頑張ること」）を明確にもつことができるようにする。
- 「あすはばば屋」を成功させるための大切なポイントと個人のめあて（「今日頑張ること」）を黒板に貼ることで、常に意識しながら学習することができるようにする。
- 学習の流れを確認し黒板に掲示することで、見通しをもつて活動することができるようにする。
- 実際に販売している様子の写真を準備することで、その場に応じたやり取りを考えることができるようにする。
- ☆ 店員役のお店屋さんごっここの映像を提示することで、売るときに必要なやり取りを確認することができるようにする。
- 友達と考えた話型や役割演技の順番や店の役割分担を話し合ったり、決めたり、守りながら、友達と協力してお店屋さんごっこができるようにする。【話す】
- 友達と考えた話型や役割演技の順番や店の役割分担を話し合ったり、決めたり、守りながら、友達と協力してお店屋さんごっこができるようにする。【動く】
- 買い物の手順表や友達と考えた話型を提示したり、教師と一緒に確認したりすることで、お店屋さんごっこに教えることができるようにする。【話す】
- 買い物の手順表を掲示したり、考えた話型は板書したりしておくことで、お店屋さんごっこのやり取りの参考にすることができるようにする。
- 買い物客役の子供が、店員役の子供のよかったところを教える活動を設定することで、互いのよさや頑張りを実感することができるようにする。【話す】
- 練習の際には「話をする人の方へ体を向けていきますか。」と尋ねたり、黙って聞くことを示した絵カードを提示したりすることで、聞くときの態度に気を付けて練習し合うことができるようにする。【聞く】
- 相手をしっかりと見たり、よい表情で接客したりすることができるようにする。【見る】
- 伝え方を意識することができるようにする。【見る】
- ◆★ 練習の様子をタブレットPCで録画し、録画したVTRを見ることで、自分のやり取りを客観的に振り返ることができるようにする。
- ◆ 「できたかなカード」（自己評価カード）を使って活動を振り返ることで、個人のめあて（「今日頑張ること」）を達成できたか自己評価したり、友達との見通しと意欲をもつことができるようにする。
- 単元マップを提示することで、次時への見通しと意欲をもつことができるようにする。

「関わり合い」想定シート

○ 単元名 あすはばカレンダーを作ろう (13/17)

○ 本時の「関わり合い」における個人目標

A児	話合いやお店屋さんごっこをするときに、話型を見ながら自分の考えを相手に聞こえる声で伝えることができる。
B児	考えた話型を友達に教えたり、友達と役割分担したりしてお店屋さんごっこをすることができる。
C児	教師や友達と一緒に考えた話型や手順表を見ながら、お店屋さんごっこをすることができる。
D児	話合いやお店屋さんごっこをするときに、友達に手本を見せたり、教えたりすることができる。

○ 本時の「関わり合い」の場面

教師の手立て

4 カレンダーを売るときにどんなことを言えばよいか考える。

あすはば屋で、お店の人はどんなことを言えばいいのかな。



まずは、入ってきたお客さんに「いらっしゃいませ。」と言った方がいいと思います。

※自分の考えを伝える。(B・D児)

僕も「いらっしゃいませ。」と言えばよいと思います。

※友達の考えを参考にする。(A・C児)



前時のお店屋さんごっこの VTR や買物の様子の写真を提示することで、売るときに必要なやり取りを考えることができるようにする。(全員)

自分で考えることが難しい子供には、友達の考えの板書や、教師が用意していた言葉を提示することで、自分に合う考えを選ぶことができるようにする。(A・C児)

5 カレンダーを売る練習をする。



いらっしゃいませ。あすはばカレンダー屋です。
※相手に伝わる声の大きさでお店屋さんごっこをする。(A児)

こんにちは。カレンダーを一つください。いくらですか。



200円です。ありがとうございました。

△△さん、今の〇〇さんのお店屋さんの様子は、どんなところがよかったですか。



「ありがとう」って言われて、とてもうれしい気持ちになりました。
※友達のよいところを言葉で伝える。(全員)



〇〇さんがカレンダーを渡しているときの笑顔がとてもよかったね。買った人はとてもうれしい気持ちになるだろうね。



△△さんが相手に聞こえる声で言っているのがいいと思いました。
※友達のよいところに気付く。(B・D児)



店員は、相手をしっかり見て渡したらいいと思います。渡す人も喜んでくれると思います。
※助言をする。(D児)

今度は僕たちがお店屋さんで、〇〇さんたちはお客さんをする番だね。△△さん、どっちがレジにお金を入れますか。どっちがカレンダーを渡しますか。
※友達と順番を決める。(B児)



相手に伝わる声の大きさでお店屋さんごっこをしている友達を称賛することで、声の大きさを意識することができるようにする。(A児)

相手をしっかり見たり、よい表情で接客したりすることができている子供を称賛することで、よりよいやり取りを意識することができるようにする。(全員)

役割分担や順番を決めたものを提示することで、確認しながら練習することができるようにする。(B児)